



# 手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がること、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。手話に関わる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2007年11月現在、川崎3、横浜4、県域11 計18名で活動中!!

厚木市手話サークル「あゆの会」創立30周年記念大会 厚木市総合福祉センター 6Fホール

11月25日(日) 12時30分～13時 記念式典

13時15分～15時 講演「手話でいこう」ろう者の言い分 聴者のホンネ

秋山なみ&亀井伸孝 氏

参加費：300円 ～ 当日、お気軽にご参加ください ～

～ '07 神通研集会報告②～

手話に出会った人がまず覚える、「おはよう」とか「こんにちは」と同様に災害時に必要な手話が広まれば・・・と思います。ということで、災害時に必要な手話をグループごとに出し合ってみました。

「災害時に必要な手話(ことば)」②

- 1、トイレ 2、お風呂 3、受付 4、掲示場所
  - 5、病院 6、怪我 7、病気 8、発熱 9、痛い
  - 10、薬 11、暑い 12、寒い
  - 13、おなかがすいた 14、のどが渴いた
  - 15、助けて 16、教えて 17、歩けません
  - 18、避難所 19、放送 20、情報 21、時間
  - 22、非常食 23、余震 24、津波 25、浸水
  - 26、配給所 27、ライフライン 28、炊き出し
  - 29、簡易トイレ 30、仮設トイレ
  - 31、仮設住宅 32、救援物資 33、災害弱者
  - 34、給水 35、減災 36、帰宅困難者
  - 37、ボランティア 38、危ない 39、火事
  - 40、崩壊(倒壊)
- サークルで災害を考えるきっかけにしてみてください。

～ 定例会 ～

\*10/13(土)、定例会を行いました\*

集会の反省。「事前に内容の詳細がわかっていたら、資料などを持ってこれた」との頼もしいご意見もあり、来年度以降、少しずつ積み重ねていけそうです。慣れないコミュニケーション方法が当たり前前のコミュニケーション方法になっていくためには、やはり日頃から地域に飛び出していくことが大切です。

地域の情報交換では、難聴者を対象とした手話サークルもあるとのこと。手話も多様化の時代に突入しています。広めることと、深めること・・・時代を反映しつつ、何が一番大切なのかは、常に見つめていく必要がありますね。

【次回定例会】11月24(土) 10:30～  
かながわ県民センター 12階 ボランティアコーナー

～サークル研究班メンバーのささやき

秋の立山、黒部に行ってきました。

一日目は大雨。山の上はまるで洗車場の中!

二、三日は晴天。澄んだ青空、紅葉の山、ふわふわとした雲海。そして長時間続く夕焼けと手が届きをうな満点星!!

是非、山の上で一度は泊ってみて下さい!!

大自然を満喫し、日頃の疲れ、いやなこと、そして手話も忘れてしまいました(^\_^);

<ポケッチ>